

M A T S U K A Z E

まつかぜ

126号

2025年度
冬号

薩南病院情報誌

発行日：令和8年1月27日

県立薩南病院南さつま市加世田村原4丁目11番地 電話：0993-53-5300

<http://hospital.pref.kagoshima.jp/satsunan/>

Index

- 医師紹介
- 連携医療施設の御紹介

- みっちゃんのおすすめ本
- 知って得する医療情報
- 部署紹介
- イベント活動報告

- いっとみやったもんせ
- 薩南っ子ページ
- 認定看護師紹介
- 編集後記



QRコードから
バックナンバーを
閲覧できます。

今回の表紙の先生：徳留医師（産婦人科部長）、久保田医師（小児科部長）
鈴医師（内科）、弓指医師（産婦人科）、永里（優）医師（内科）、
吉水医師（内科）、大田医師（小児科）、永里（果）医師（内科）

イラスト：MAYA

- 内科 Drs. - 医 師 紹 介

令和7年度の内科は田中副院長はじめ、大橋医師、藤崎、日高医師、永里優宗医師、永里果歩医師に加え、野間池診療所でも勤務している矢野医師、長野医師の計8名で診療にあたっています。

今年度より月・木曜日は矢野医師が、火・金は長野医師が野間池診療所で勤務し、それ以外の曜日は薩南病院で働くといったグループ診療を行っています。そのおかげで野間池診療所圏内の患者さんに関して外来から入院までスムーズに情報共有できています。

内科では糖尿病や脂質異常症など生活習慣病から、喘息や肺炎などの呼吸器疾患、コロナや結核などの感染性疾患、慢性腎臓病から透析までの腎疾患、貧血などの血液疾患など携わる疾患は様々です。また入院される患者さんに対しては、上記疾患の治療に加え、緩和治療を病院で継続する方、自宅で過ごすことが難しくなってしまった方の退院後のサポート調整も内科での大事な役割だと考えています。

年度毎に医師の派遣人数も異なりますが、今年度は多くの医師体勢で診療にあたることでありますので、今まで以上に地域の病院としてお役にたてられる場面が増えたら良いと思っています。よろしく願います。

(内科・藤崎)

- ①出身地 ②専門科・志したい科
- ③趣味・特技 ④ひとことメッセージ

副院長 田中

- ①鹿児島県(福山町)
- ②内科 呼吸器内科
- ③趣味ダイエット 特技リバウンド
- ④副院長になりました。地域の皆様に信頼される薩南病院を目指します。



藤崎

- ①鹿児島市谷山
- ②血液内科
- ③モルック、旅行の計画
- ④途中産休・育休をはさみながら5年目になりました。今後ともよろしく願います。



日高

- ①鹿児島市
- ②内科、専門探して勉強中
- ③ゲームを楽しむ、ドラマ、剣道
- ④体調頑張って整えて地域に貢献できるように頑張ります。



矢野

- ①鹿児島市
- ②乳腺・甲状腺外科
- ③旅行
- ④専門は外科ですが内科でも患者様に寄り添い、臨機応変に対応出来る医療を目指します。



永里(優)

- ①鹿児島
- ②整形外科
- ③運動全般
- ④なんでも紹介お誘い待っています。



永里(果)

- ①鹿児島
- ②内科・小児科
- ③体を動かすこと、手芸
- ④丁寧な医療を提供できるように、一生懸命頑張りますのでよろしく願います。



長野

- ①鹿児島
- ②外科・小児外科
- ③パン作りのYoutubeを見る
- ④気軽に相談いただけるような診療を心がけ、日々精進してまいります。



連携医療施設の御紹介

さつま訪問看護ステーション

「どんな人でも受け入れたい気持ち」看護管理者インタビュー

◎さつま訪問看護ステーションの特徴について教えてください。

平成15年に開設しました。利用者様は新生児～100歳以上の方まで幅広い年齢層への訪問看護を行っています。現在は約120名の利用者様が登録されており、併設施設の看護多機能小規模ホーム「和が家」（以後、看護多機能）の看護師と合わせて10名の看護職員、作業療法士2名、理学療法士3名で対応しています。また、鹿児島市谷山にある系列の事業所から2名の言語聴覚士の応援もあるので、在宅で幅広い看護やリハビリの提供ができると思います。

当事業所の理念は『自分や自分の家族にして欲しいケアを提供しよう』を掲げ、低出生体重児・医療ケア児・難病・高齢者・精神疾患・がん等の終末期にある方への支援を行っています。居宅介護支援事業所も併設しているので、訪問看護と介護の連携が取りやすく、複合的なケアの提供や介護度が高くなった場合は看護多機能のショートステイを利用することも可能です。ショートステイの利用頻度が増え在宅での生活が難しい場合は、看護多機能にある有料老人ホーム「和温」を利用するなど、最後まで利用者様とご家族が安心して在宅療養を続けられるよう支援しています。



◎南薩地域の医療の現状と今後の展望についてはどうでしょうか？

「どんな人でも受け入れたい」気持ちではありますが、在宅看取りをご希望される利用者様がいても、訪問診療医が鹿児島市内ほどこないことでしょいか。南さつま市に限った話ではありませんが、地方は訪問診療を対応される医療機関が少ないことが、訪問看護師としての看護・ケアの壁を感じます。今後の展望としては、令和6年から看護多機能で医療ケア児の共生型ショートステイ（障害福祉）も始まりました。在宅で不安になっているお母様・ご家族が少しでも安心できる環境・看護を提供できればと思います。

◎薩南病院との連携について教えてください。

がん・心不全・透析・糖尿病患者様に関する問合せ等で連携することが多く、症状が悪化する前の受診に繋がっています。地域医療連携室が病棟・診療科別で担当者が決まっているので、相談もしやすく随時連絡できる関係性が訪問看護師の安心に繋がっています。また、新病院になったことでアクセスのしやすさもあります。

◎最近の事業所の動きや取り組みについてお聞かせください。

医療ケア児の共生型ショートステイを利用できるようになったこと、在席しているスタッフには認定看護師や特

定看護師もいます。胃瘻・褥瘡・輸液管理をはじめ、在宅療養に関する専門的知識や技術をもって、地域の皆様が安心して過ごせるよう取り組んでいます。

◎最後に、地域の皆さんへメッセージをお願いします。

地域の方から「もっと早く知りたかった」とお言葉を頂くことがあります。事前にご相談頂ければ施設見学も対応しています。また、今は『アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）』が医療・看護・介護の課題にあります。もしもの時に備えて、自分がどう過ごしたいかと事前に話し合うことが大事です。利用者様の思いを受け止め支援していきたいと思っています。（地域連携・新留）



さつま訪問看護ステーション

◎住所：〒899-3515 南さつま市金峰町中津野1207-1

◎電話番号：0993-77-2110

◎営業時間：月～土：8:30～17:00（日祝・年末年始・お盆休み）訪問看護：24時間体制 365日対応

みっちゃんのおすすめ本

このコーナーは、本好きの『みっちゃん』のおすすめ本を紹介するコーナーです。

図書館で本を選ぶ際などにぜひ、ご参考にしてください。

みっちゃんとは

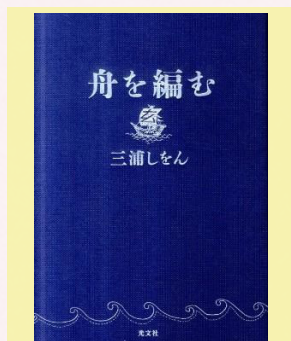
架空のカフェ薩南のマスターで趣味は本を読むこと



前回のこのコーナーを読んでいた方から、本は読んでみたいと思うけどどれを読んだらいいのかわからない。何か参考になるものがあれば教えてほしいという意見を何人かの方からもらいました。芥川賞や直木賞など有名な文学賞をとった作品から読み始めたものの内容や文章が難解で途中で断念した方もいらっしゃるかと思います。

私がおすすめるのは本屋大賞へノミネットされた作品から選ぶことです。本屋大賞は2004年から始まり全国の書店員さんが「一番売りたい」と思う本を投票する形式で選ばれます。作家ではなく（一般読者である）本好きの書店員さんが選んだ本ですので、非常に読みやすく、面白い本が選ばれているように思います。

今回は大賞受賞作からおすすめの5作品を紹介したいと思います。古い順にまず2005年の第2回大賞を受賞した「夜のピクニック」、映画にもなった恩田陸さんの本です。高校最後の歩行祭り約80Kmを夜通し歩く青春小説で、60歳を過ぎて読み返しても高校時代がよみがえる名作です。次は2012年大賞受賞の「舟を編む」です。これはNHKでドラマ化、そして映画化もされた三浦しをんさんの作品です。辞書を創る人たちの思いや情熱、また言葉の意味について



でも考えさせられる印象深い作品でした。2016年受賞の「羊と鋼の森」宮下奈都さんの作品は北海道を舞台にしたピアノの調律師を目指す青年が主人公の小説で、静謐で透き通るような描写が印象的でした。2017年は「蜜蜂と遠雷」恩田



陸さん2回目の受賞です。国際ピアノコンクールを舞台にした音楽小説で、かなりの長編ですが実際にコンクールを見ているようで一気に最後まで読んでしま

います。またこの作品には「祝祭と予感」というスピンオフ小説があります。興味のある方はぜひこちらも読んでみてください。最後は2019年大賞受賞、瀬尾まいこさんの「そして、渡された」です。父が3人、母も2人いる女子高生が主人公の家族愛にみちた涙腺崩壊の小説です。くしくも今回取り上げた作品は5作品ともすべて映画化されているようです。



大賞受賞作以外にも面白い作品がたくさんあります。面白かった本をもう少し挙げてみると「クライマーズハイ」、「死神の精度」、「悪人」、「64」、「君の臓腑を食べたい」、「i」、「店長がバカすぎて」、「線は僕を描く」、「赤と青とエスキース」、「君のクイズ」などなど盛りだくさんです。

最後に本選びのコツをひとつ、本屋さんで並んでいる本の表紙をみて、直感で何となく好きだな、面白そうだなと思う本を選んでください。外れることもあります。みっちゃん

飲み薬にはさまざまな種類があり、形や色、大きさも様々です。

その中で、薬の名前の途中にODやCRといったアルファベットが付いている薬があることにお気づきでしょうか。これらのアルファベットには、それぞれ意味があります。

見た目は同じ錠剤でも、これらのアルファベットには、薬を飲みやすくしたり、効果を長く持続させたりする工夫が込められています。

広く見られるのは「OD錠」でしょう。ODとはORAL DISINTEGRATIONを省略したもので、「口腔内崩壊錠」という意味です。通常、飲み薬は水や白湯と一緒に服用しますが、OD錠は少量の水、または唾液で簡単に溶ける飲み薬です。そのため、錠剤を飲み込むのが苦手な方にとって、とても便利な剤形です。また、口の中で溶けやすいため、甘みやさわやかな風味が付けられていることが多く、溶けた後は唾液と一緒に飲み込んでください。

一方、「CR錠」や「CONTROLLED RELEASEやLONG ACTINGを省略したもので、「徐放錠」を意味します。薬の成分は、服用後に体内で徐々に分解・排泄され、効果が失われていきますが、効果が

短時間で切れてしまうと、服用回数が増えてしまいます。また、体内の薬の濃度が急激に高くなると、副作用が起こりやすくなります。

これらの問題を解決するため、徐放錠は服用後すぐに吸収されるのではなく、薬の成分を少しずつ放出することで、効果を長時間持続させる工夫がされています。その結果、服用回数を減らすことができ、体内濃度の急激な上昇も抑えられるため、副作用の軽減にもつながります。そのため、徐放錠をかみ砕いたり割ったりすると、薬の成分が一気に放出され、副作用が強くなる可能性があるため注意が必要です。

このように、薬は成分そのものだけでなく、錠剤の構造や性能を工夫することで、効果を持続させたり、副作用を抑えたり、服用の負担を軽減したりすることができます。今回は代表的な2種類をご紹介しますが、ほかにもさまざまな工夫が施された薬があります。ただし、すべての薬がこれらの性能を持つてはありません。

現在使用している薬について、効能・効果や剤形の特徴が気になる方は、お気軽に薬剤師へご相談ください。
(薬局・右田)



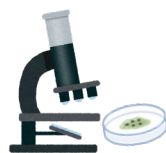
検査部

部署紹介



臨床検査技師長
有馬さん

迅速で正確な検査を通して、診断や治療を支え、患者さんの安心につなげます



当院の検査部は、臨床検査技師9名で検査を実施しています。検体検査室、生理機能検査室に分かれ検査を行い、病気の診断や経過観察、治療効果の判定等行えるようサポートしています。

それでは、検体検査室と生理検査室をそれぞれ紹介したいと思います。

検体検査室では、主に血液検査、尿検査、細胞診検査、細菌検査などを行っています。

血液検査では、肝臓や腎臓の

状態、炎症の有無、血糖、貧血の有無など少量の血液から体の状態を調べることであります。

尿検査では、尿中の成分を試験紙による測定、尿中の有形成分を顕微鏡にて実際に観察します。

細胞診検査では、細胞検査士が顕微鏡で検体中の腫瘍細胞の有無を調べます。

細菌検査では、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルス迅速検査、結核菌群やマイコプラズマ肺炎のPCR検査を行っています。

次に、生理機能検査室についてご紹介いたします。主に心電図や肺機能検査、腹部超音波検査、心臓超音波検査、脳波検査などを行っています。

超音波検査は、耳では聞こえない音（超音波）の跳ね返りの強さで臓器の形態や血流の流れを調べる検査です。痛みや侵襲性の少ない検査のため、子供や妊娠中の方でも受けることができます。検査時間は一人当たり20〜30分程度です。

検査部では、このように日々たくさんの検査を行っています。今後とも迅速で正確な結果を報告ができるように、機器管理や技術向上に努めてまいります。
(検査部・園田)

今回は検査部を紹介しました。

県立病院学会

10月18日、
鹿児島県市町村自治会館にて「第58回県立病院学会」が開催されました。鹿児島県の県立病院が一堂に会し、地域医療の充実や病院運営の向上を目指し、講演や演題発表等が行われました。



薩南病院三枝院長の挨拶

講演では、「持続可能な地域医療の実現へ」というテーマで県立病院事業管理者の原口優清先生が登壇しました。地域医療の現状や今後の課題に加え、県立病院全体の経営状況などについて詳しく解説されました。県立病院として地域に果たすべき責任と役割や、持続可能な医療体制を構築するために経営面での安定化も重要であると職員一同改めて実感しました。

演題発表は、一般演題・臨床研修医活動報告・業務改善活動報告の3部構成で行われました。当院からは、一般演題発表の部で大田副薬局長が「がん化学療法実施における安全規定の策定と取り組みについて」、手術室の松山看護師が「手術室看護に対するイメージの実態調査」、認定看護師である下迫看護師が「認定看護師の現状と院内看護師のニーズを踏まえた新たな教育システムの提案」とい

うテーマでそれぞれ発表しました。発表者の松山看護師は、「今回はじめて県立病院学会への参加、発表を経験させていただきました。緊張もありましたが、自分たちが取組んだ研究に対して、様々な方からのうれしいお言葉やご助言をいただき、とても貴重な経験になったと感じています。」と感想を話していました。

臨床研修医による活動報告では当院の勤務経験もある研修医の先生方が、研修期間中に経験した症例や学んだこと、医療現場での成長と努力の一端を知る機会となりました。鹿児島県の地形の特徴である離島での医療の経験を通じた発表もあり、会場の先生方とも活発な意見交換が行われました。



研究報告・松山氏

業務改善活動報告では、患者さんへのサービス向上や経費削減などをテーマとした取り組みが共有されました。ここでも当院から検査部の有馬技師長が「ランニングコストの比較による経営改善の試み」、放射線部の草野副技師長が「放射線部の電気代節約について考えよう」というテーマでそれぞれ発表しました。発表者の草野副



研究報告・下迫氏



研究報告・草野氏

技師長からは、「ステージ上での発表は今年で3回目。相変わらず時間を守れない発表でしたが、程よい緊張感を持って挑めました。今後、どのような活動が発表されるか楽しみです。」と感想をいただきました。

そして学会の最後を締めくくる特別講演では、株式会社麻生飯塚病院の福村副院長に「TQMで支える病院経営―自ら変わる組織（個人）であるために―」というテーマで講演いただきました。TQM（総合的品質管理）活動などの医療従事者の意識向上につながる取り組みが具体例を交えて紹介され、参加者は医療の質の向上や働きやすい職場環境づくりについて理解を深めました。

今回の学会は、県内の病院が互いの取り組みや成果を共有し合い、地域医療の未来を共に考える貴重な場となりました。当院からの発表も活発な意見交換が行われ、当院の取り組みが地域医療の発展に広く貢献していることを実感できる機会となりました。これから、地域のみならずが安心して医療を受けられるよう努めてまいります。

（総務課・立石）



麻生飯塚病院副院長の講演の様子

イベント活動報告

市民講座



田中副院長による、肺がん診療の講演

10月11日に市民講座を開催しました。

市民講座は、市民の皆さまに健康に関する知識や日常生活に役立つ情報を提供することです。予防医療を促進し、また当院で提供している診療内容を知っていただき、より利用しやすくなることを目的に毎年開催しています。今年で20回目を迎えた市民講座では、以下の2つのテーマで講演を行いました。

1「肺がん診療まるわかり2025」

田中副院長が、肺がんに関する検査や治療の選択肢、セカンドオピニオンなどについて講演しました。



新留がん緩和看護認定看護師の講演

2「もしも病気になるたらそのとき助けになる緩和ケアと話し合い」

新留緩和ケア認定看護師が、緩和ケアの内容やACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の取り組みについて説明し、病氣と向き合うための情報を提供しました。

参加者からは、「治療法が多くあることや治療の流れがよく理解できた」「緩和ケアについてほとんど知らなかったの、とても参考になった」といった感想をいただきました。

これからも、皆さまの健康を支える身近な存在として、様々な医療情報をお届けし、地域全体の健康向上に尽力してまいります。（総務課・上野）

がん緩和ケア研修会



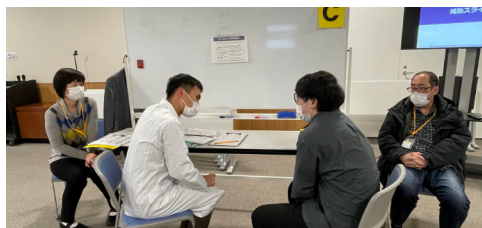
寒さが日ごとに増してまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

12月7日、令和7年度「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」が、薩南病院にて開催されました。本研修会は、南薩保健医療圏の「地域がん診療病院」として、圏域内でがん診療に携わる医師等を対象に緩和ケア研修を実施するとともに、鹿児島県における緩和ケア研修事業を担う人材の育成・確保を目的としたものです。当日は県内の医療機関から、熱意ある医師・看護師・薬剤師が参加されました。

参加にあたっては、事前にeラーニングで基礎知識を修得する必要がある、研修当日は講義形式で知識の確認が行われました。ただ聴講するだけでなく、ファシリテーターの先生方から質問される場面もあり、緊張感のある学びの時間となりました。がん疼痛のケアに関するセッションでは、提示された症例をもとに、呼吸困難や悪心・嘔吐といった副作用への対応

も、オピオイドの選択、患者様どのように寄り添うかについてグループワークを行いました。さまざまな意見が交わされ、非常に活発で充実した時間となりました。薬剤師は一人であつたため、主に薬剤選択の視点から意見を述べさせていただきました。

また、がん医療におけるコミュニケーションでは、医師役・患者役・観察役の3人1組に分かれ、ロールプレイングを実施しました。この演習を通して、傾聴スキルやオープン・クエスチョンを用いた質問技法、適切な応答スキルについて学びました。特に、告知などの悪い知らせを伝える際に、患者様の気持ちに配慮しながら、分かりやすく的確に伝えることの難しさを改めて実感しました。研修終了後には、参加者同士で「来年は〇〇科で、より患者様に寄り添った医療を実践したい」「認定資格を取得し、さらに知識を深めたい」など、今後の目標について意見を交わす機会もあり、私自身大きな刺激と励みをいただきました。（薬局・岡村）



職種に関係なく、医師役や患者役になり実際の告知の説明等を学びます。

敬老の日



9月12日、敬老の日を祝して、当院の三枝院長がご高齢の入院患者さんに記念品を贈呈しました。入院患者さん一人ひとりに心を込めて記念品を手渡し、「入院



生活頑張りましょうね。元気になって長生きしてください。」と言葉をかけました。患者さんの「ありがとう！」と笑顔で受け取る姿や、力強く頷かれた姿が印象的でした。

敬老者の皆さん、敬老の日おめでとうございます。当院では地域医療に貢献するため、日々患者さんへの丁寧なケアを大切に行っています。今後も、地域の皆様の健康を支えるため、当院は患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される病院を目指していきます。(総務課・立石)

南薩地区透析関連施設研修会

南薩地区透析関連施設研修会を年4回実施しました。

この研修会は薩南病院を基軸としておよそ20年の歴史があり、当院・南薩ケアほすびたる・宮内クリニック・南さつま中央病院・小原病院・サザンリージョン病院の透析室スタッフが、3ヶ月ごとに輪番で主催し、実施しています。

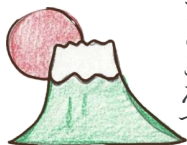
透析に使用する薬剤、新しい透析治療法など透析に関連したトピックの研修会を開催、学会に参加した医師・スタッフの報告、その後各施設代表者同士の意見交換もおこなっています。

透析の治療は日進月歩であり、研修会を定期的に行うことや意見交換において透析に対するそれぞれの施設の疑問点や穿刺などの工夫を共有することで南薩地区の透析医療レベルの向上につながっています。

コロナ禍前には南薩地区の透析患者向けに日曜日に勉強会を行う患者会がありました。

疾患や食事指導等の学習会を年1回開催し、透析患者同士の交流も行われていました。

また、復活が出来ればと思うところで。(透析室・福元)



大規模災害訓練

12月5日、南さつま消防署協力のもと大規模地震を想定した大規模災害訓練を実施しました。

今回の訓練は、南さつま市内において最大震度5弱とした、甕島列島東方沖を震源とする地震が発生したことを想定し、院内の災害対策本部の設置、運営や各病棟などの被害状況報告書の提出など、地震発生時の初動対応訓練、各トリアーリエリアの受け入れ対応訓練を実施しました。

当院は災害拠点病院ならびにDMAT指定医療機関です。

南薩地域の中核病院として、今後起こりうる局地災害や南海トラフ巨大地震といった大規模災害(広域災害)で発生した傷病者の受け入れなどの役割を果たすため、今回の訓練を重ね、職員の防災意識向上に取り組んでいきます。

(5階病棟・外村)



いっとみやっただもんせ



近隣観光スポット sun sea 5

薩南病院から車で5分ほど地頭所方面へ向かい、ニシムタさんの裏手にあるハワイアンカフェ「Sun sea 5」さんに行ってきました。

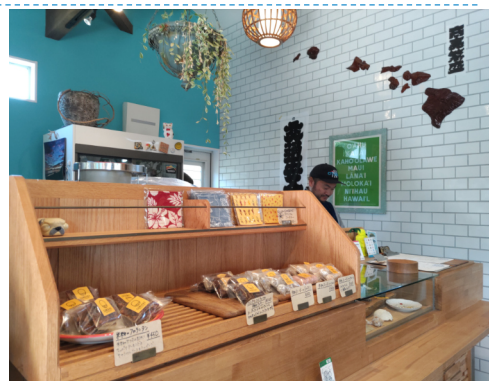
ご主人は2人の男の子のお父さんでもある鮫島拓朗さん。ハワイが大好きで、南さつま市のご実家近くで6年前にお店を始められました。「黄色は明るい気持ちになる」と、お店のドアやロゴには黄色が使われています。ウッドデッキから



は焙煎機を見ることができ、天気の良い日には外で飲み物を楽しむことも。「一人でしているのでお待たせしてしまう。待ち時間も楽しんでもらえたら」と、ブランドも設置されています。インテリアにもハワイの要素が散りばめられ、天井に飾られたロゴ入りサーフボードも印象的です。

店内に入ると、コーヒーの良い香りが漂います。自然食品の会社に勤めていた経験や、奥様が小麦アレルギーであることから、オーガニックや減農薬の材料にこだわっているそうです。「子どもからお年寄りまで安心して食べてもらえるよう、材料には気を付けています」と笑顔で話してくださいました。

コーヒーはオーガニックのスペシャルティコーヒーを自家焙煎。鮮度を大切に少量ずつ焙煎し、浅煎り・中煎り・深煎りをそろえています。オーガニックバナナを熟成させて作るバナナスムージーは、熟成具合や気温によって氷の量を調整。もともとはお子様向けでしたが、今では幅広い年代に人気だそうです。フローズメニューのほか、自家製米粉を使ったチ



ョコチャンククッキーやバスケットケーキ、焼き菓子も並びます。キビ砂糖や甜菜糖、アルミフリーのベークンパウダーを使用し、すべて手作り。バスケットケーキは誕生日用の注文が入るほどの人気で、「字は書けないのでご了承ください」とのことでした。

最近では市外や海外からのお客様も増えているそうです。以前アロハシャツを扱っていた頃には、著名人が来店されたこともあるそうで、思わず立ち寄りたくなる素敵なお店です。

自転車が趣味のご主人は、開店前にサイクリングを楽しみながら外コーヒーを味わっているとのこと。南さつま市の魅力を自転車で巡り、コーヒーやパンを楽しむ企画も準備中で、2月には店内で朗読会も予定されています。

コーヒー豆を200g購入すると、一部メニューのサービスもあります。

ぜひ、こだわりのコーヒーとお菓子、そしてハワイの空間で癒しの時間を過ごしてみてください。
(3病棟・川野)



住所：鹿児島県南さつま市
加世田地頭所2666-5
駐車場：あり
営業時間
平日10時～16時半(16時LO)
土日10時～17時(16時半LO)
休日：月曜日・不定休

薩南っ子ページ



当院でご出産されたママさんとパパさんに、出産について
今のお気持ちを聞かせていただきました。



質問内容

Q1：薩南病院を選んだ理由

Q2：お産や入院中で、印象に残っていること

Q3：赤ちゃんに会えたときの気持ち

【Oご家族さま】

A1：幼い頃から、お世話になっていた病院で安心感があったから。

A2：全てが初めてで、一人では心細いときに先生や助産師さんが時間をかけて寄り添ってくださり、安心して過ごすことができました。わからないことも丁寧に明確に教えてくださったことが特に印象に残っています。

A3：色々な気持ちが込み上がってきましたが、そのなかでも最も強く感じたのは「幸せだ～」という気持ちでした。「必ず幸せにしてあげたい。」という思いが自然と湧き上がりました。



【Nご家族さま】

A1：受診するときも出産するときもなるべく家から近いところが良かったため。

A2：家で破水をして入院になり誘発の点滴をしているとき、急に陣痛が始まり、自分のなかではまだ大丈夫なときの内診で子宮口8cmと言われ、正直「もう8cm？」と思いました。しかし、そこからの陣痛がきつく、たくさん叫びました。子宮口全開からは生まれるまで5分もかからず出てきてくれたので、早すぎて「え？」と言ったのを覚えています。たくさんの方々が見守ってくれていたのも、安心して出産することができました。

A3：自分のおなかの中でたくさん蹴ったり暴れたりしてたのが、こんなに小さくてかわいかったんだと思いました。産まれてきてくれてありがとう。これからたくさん経験と思い出を作っていこうね。



【Kご家族さま】

A1：自宅から近く、県立病院なので医療の設備も整っていて安心してお産できると思ったためです。

A2：今回の出産は羊水過少とのことで、予定日より早めの入院、お産になり、正直心の準備ができないまま計画分娩になりました。しかし、先生や助産師さんが何度も丁寧に検診や、モニターで赤ちゃんの安全を確認してくださったり、「大丈夫だよ」と優しく声をかけてくださり、不安な気持ちも和らぎました。お産中も思っていた以上に早くお産が進み、強い痛みが一気に来て苦しみましたが、たくさんの助産師さんが側で優しくサポートしてくださり、安心して無事に出産できました。たくさんの声かけ、サポートしていただき、ありがとうございました。

A3：約10か月おなかの中にいた子が無事に出てきてくれ、産声を聞いたときは幸せな気持ちと、やりきったという達成感の気持ちでいっぱいになりました。おなかで感じていた胎動を感じられなくなるという寂しさもありましたが、一番近くで見られるという嬉しさもあり、これからこの子を大切に育てていこうと思いました。たくさんサポートしてくださった先生や、助産師さんにも感謝しています。



Information

県立薩南病院産婦人科は、南さつま市で唯一の分娩施設として、地域のお母さんと赤ちゃんが安心してお産を迎えられる環境づくりに努めています。令和5年に移転し新しくなった院内に産婦人科が新設され、医師3名と助産師、看護師が連携し、妊娠期から出産、産後まで一人ひとりの思いや希望に寄り添いながら関わっています。母乳ケアや育児の相談、産後の不調にも



丁寧に対応しています。院内の内科・小児科に加え、地域の医療機関や関係機関とも連携し、継続した支援ができる体制を整えています。今年度から始まったお祝い膳は、「出産後の楽しみ」「心と体がほっとする」と大変好評です。出産後も女性のかかりつけとして、ぜひお気軽にご来院ください。たくさんの妊婦さんや赤ちゃんとお会いできることを、職員一同楽しみにしています。（3階病棟・川野）



認定看護師紹介

リソースコース

鹿児島県立病院には、現時点で9分野32名の認定看護師（うち3名は特定行為研修修了者）と、術中麻酔に関する特定行為研修修了者1名が在籍しています。当院では、緩和ケア2名と皮膚・排泄ケア、がん化学療法、感染管理、心不全看護（育休中）が各1名が在籍しています。認定看護師とは、日本看護協会が認定した教育機関の研修課程を修了し、認定看護師資格試験に合格した看護師です。実践現場においては、「実践・相談・教育」を柱として、専門的な知識と技術を活かした活動が求められています。活動形態は分野にも異なりますが、「専従（業務時間の多くを認定看護師活動に充てる）」と、「専任（通常の看護業務と兼務しながら活動する）」に分けられます。専任の場合、平常業務の合間での活動が中心となるため、現場教育まで十分に関わることに難しいという課題がありました。また、臨床現場の看護師は、経験年数や能力に応じてラダー1からラダー4に区分されています。ラダー1は新人、ラダー2は勤続2年目、ラダー3はそれ以上の経験を有する看護師、ラダー4は副師長や認定看護師レベルに該当します。当院では、全看護師の約73%がラダー3に位置しており、この層の看護の質を高めることが、病院全体の看護の質向上につながると考えています。

しかし、ラダー3に該当する看護師は、キャリア形成だけでなく家庭内での役割も担っていることが多く、時間外での学習時間を確保することが難しいという現実があります。そこで当院では、令和7年4月より、看護部教育委員会と連携し、「リソースコース」という新たな教育システムを立ち上げました。この取り組みでは、在籍する認定看護師の専門分野ごとにクラスを設け、主にラダー3の看護師が所属します。年3回、勤務時間内に実地訓練や講義を受講することで、現場に即した専門性の向上を目指しています。認定看護師にとっては、同内容の講義を複数回実施するため負担もありますが、少人数制でのクラス運営により、普段関わる機会の少ない部署間の交流や、日頃の疑問をその場で相談できるといった効果も得られています。本取り組みは、今年度から始まったばかりであり、調整が必要点も多くありますが、各部署の師長・副師長の協力を得ながら、内容のブラッシュアップを進めています。今後も、これらの活動が当院を受診される患者さんへのケアの質向上につながるよう努めてまいります。そして将来的には、認定看護師の育成・拡充にもつなげていきたいと考えています。

（感染対策管理室・酒井）



編集後記



今日は12月31日、2025年最後の日。季節は冬になるわけですが、吐く息が白くなるほど寒いこともなく、今年の年末年始も比較的暖かく過ごせそうです。

さて、数か月前に「日本の二季化」が進んでいるという新聞記事を読みました。地球温暖化の影響で夏の期間が長くなり、春と秋の期間が短くなっているといった内容でした。気象庁による夏の定義は6月8月だそうですが、南国鹿児島に住んでいると10月頃までは夏の感じがします。

今年の夏を振り返ると、全国的にも夏の気温は高く40度を超える猛暑となった地域もあり、暑さを我慢したり水分補給を怠ると命に危険が及ぶほどで、熱中症で倒れる人が多かった年でした。11月になっても秋の気配をあまり感じることがなく、寒波で冷え込む日もあれば、夏のように暑くなる日もあって、日々の寒暖差に戸惑う人が多かったように思います。

人はそういった自然環境の変化にすぐさま適応する術をもっています。栄養管理室で給食材料の調達に携わっていると、気候変動がもたらす食料への弊害を実感します。当院では、患者さんに旬のものを美味しく食べていただきたいという思いから、四季折々の食材を使用した給食を心がけていますが、高温障害で野菜や果物の生育が悪かったり、鶏が夏バテして卵の規格が小さかったり、使用予定の魚が不漁で市場に出回らないといった事態もあり、今までと事情が違うことを目の当たりにして改めて、食料への感謝や生産者のご苦労を感じた年でもありました。

地球温暖化を止めることは難しいのですが、これからも空高く実りある秋や生命の息吹を感じる春が訪れ続けることを願って、限りある資源を大切にしていきたいと思っています。

明日は元旦、まつかぜ今号は1月の発行です。冬の寒さも本格的になってまいりますので、読者の皆様お体を大切に、どうぞ暖かくして新年をお過ごしください。

（栄養管理室・内村）



本誌をご覧いただき、ありがとうございます。
今後の病院広報誌づくりの参考とするため、
内容についてのご意見・ご感想をお聞かせください。
皆さまの声を、より良い広報誌づくりに活かしてまいります。
スマホ等でこちらのQRコードからアンケートの御協力をお願い致します。

